

## 第6章

## 水に関する自発的な活動等

### 1 安全でおいしい水への要望【再掲】

「p.58 参照」

### 2 水資源に関する意識

令和2年（2020年）に内閣府が実施した「水循環に関する世論調査」によると、水道の水源の認知度を聞いた結果、約8割の人が「知っている」（「知っている（具体的な河川や湖の名などまで知っている）」38.9%と「ある程度知っている（河川や湖などであることは知っている）」37.6%との合計）と回答している（図6-2-1）。令和2年は「知っている」（「知っている（具体的な河川や湖の名などまで知っている）」と「ある程度知っている（河川や湖などであることは知っている）」との合計）が76.6%、「知らない」（「あまり知らない（漠然としか知らない）」と「知らない」との合計）が21.6%となっている（図6-2-2）。また、令和2年の同調査を年齢別に見ると、50～59歳以上の年齢階級では4割以上の人が「知っている」と回答しているのに対し、18歳～29歳では「知っている」と回答した人は約1割強である（図6-2-3）。

平成26年（2014年）に内閣府が実施した「水循環に関する世論調査」によると普段の生活で節水しているかどうかを聞いた結果、「節水している」または「どちらかといえば節水している」と答えた人は80.5%である（図6-2-4、6-2-5）。「節水している」または「どちらかといえば節水している」と答えた人を男女別にみると、男性が78.8%、女性が81.9%と女性の方が高く、年齢別にみると70歳以上で85.3%である一方、20～29歳では71.0%と若い層の方が低くなっている（図6-2-6）。

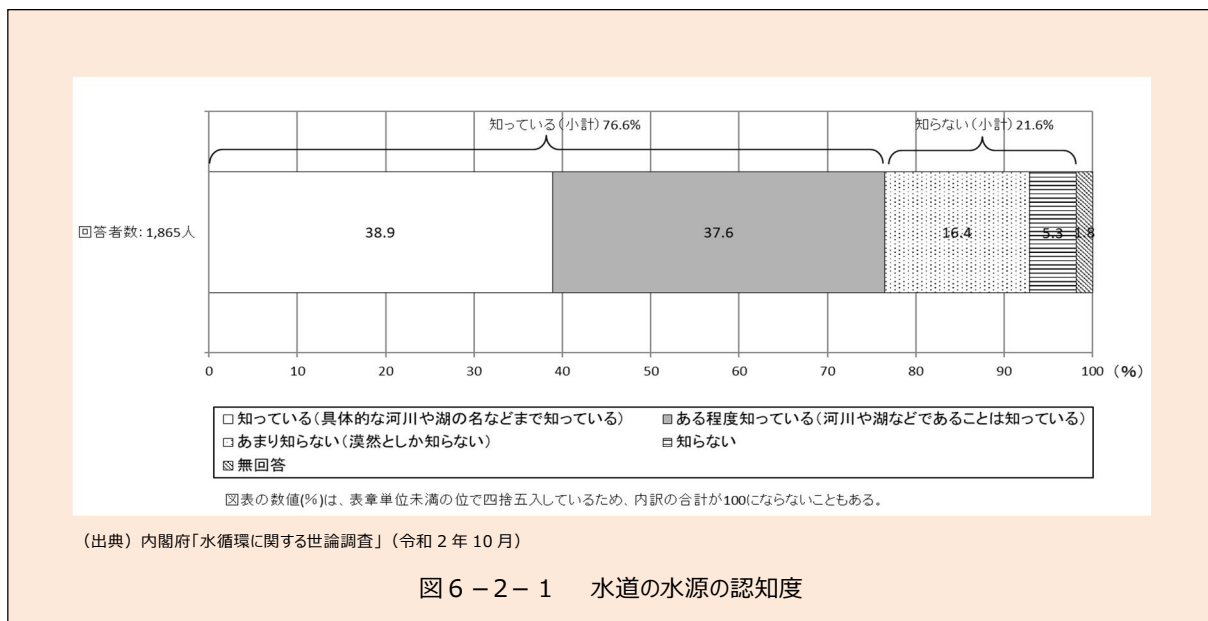
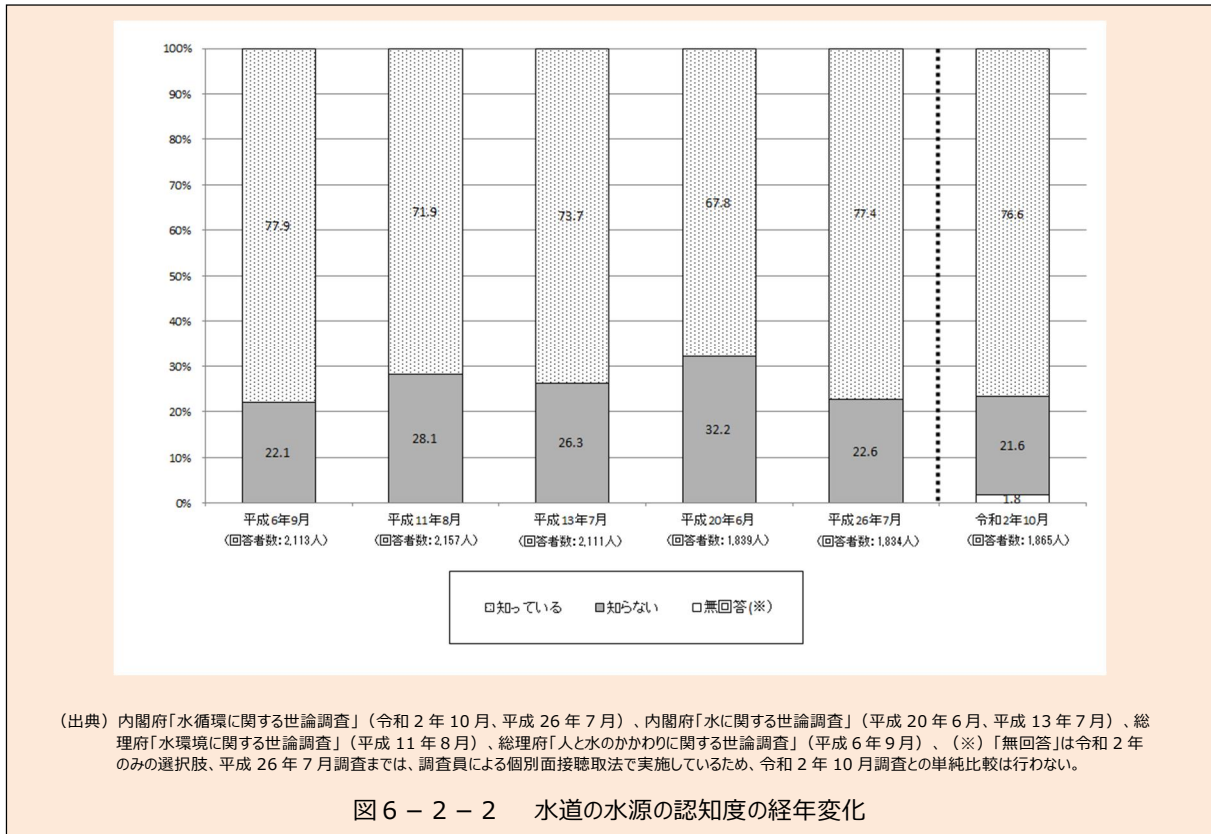


図6-2-1 水道の水源の認知度



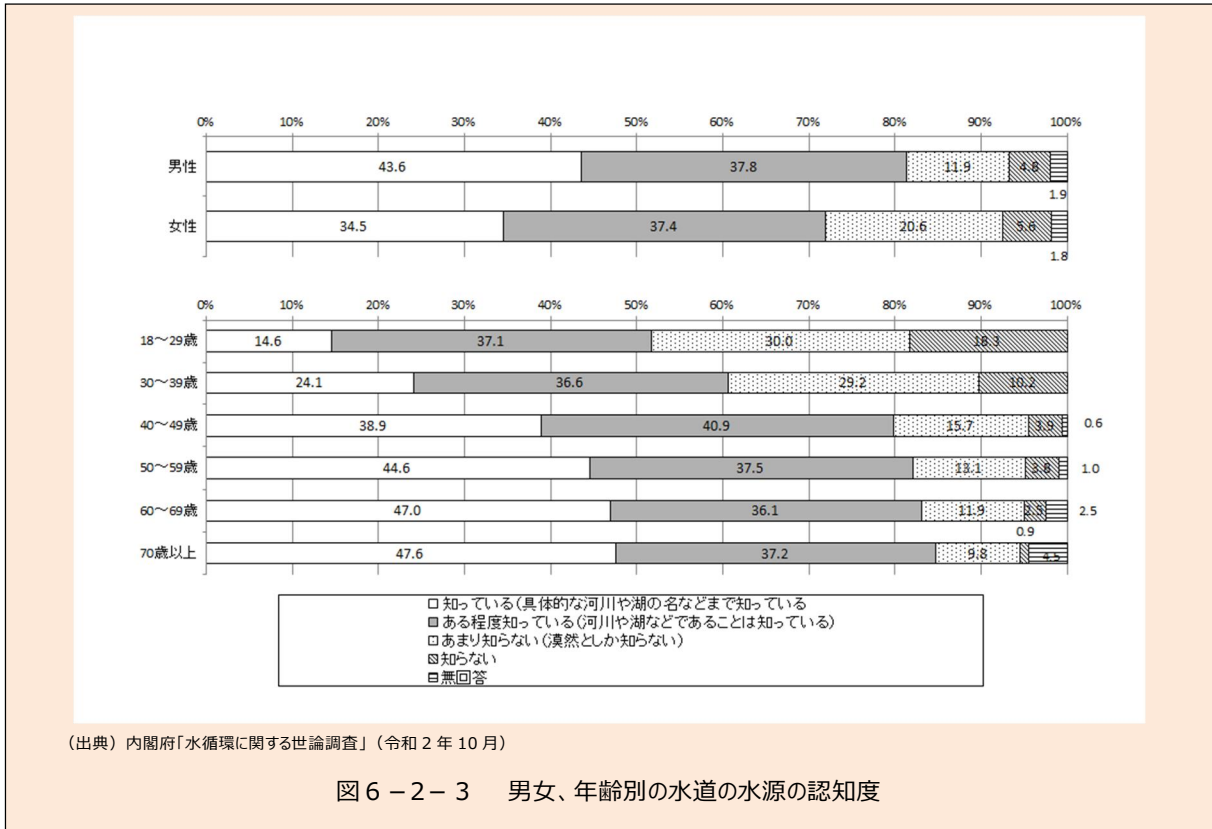


図6-2-3 男女、年齢別の水道の水源の認知度

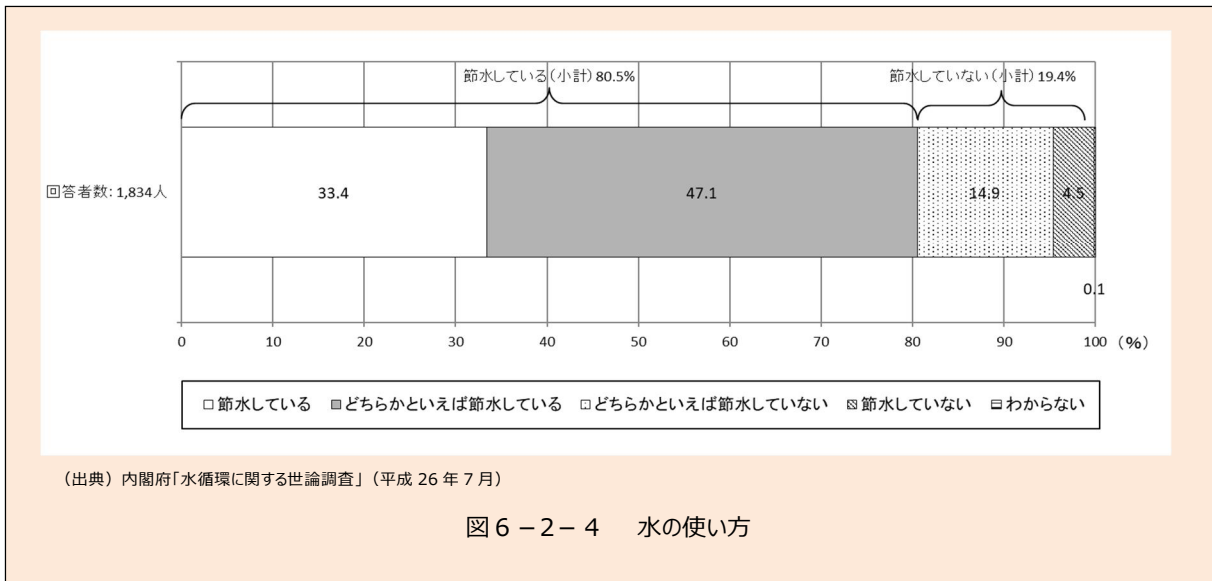


図6-2-4 水の使い方

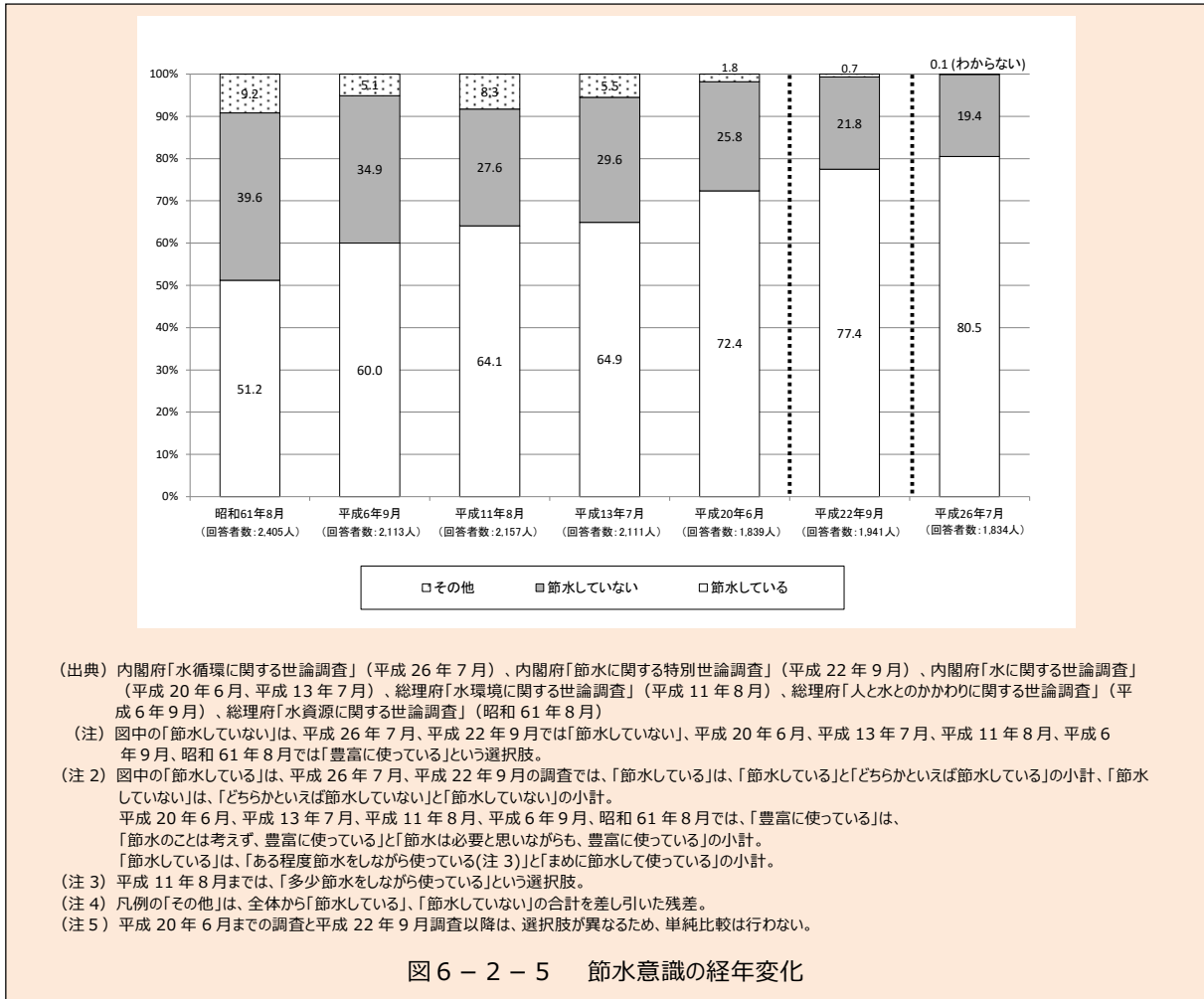


図6-2-5 節水意識の経年変化

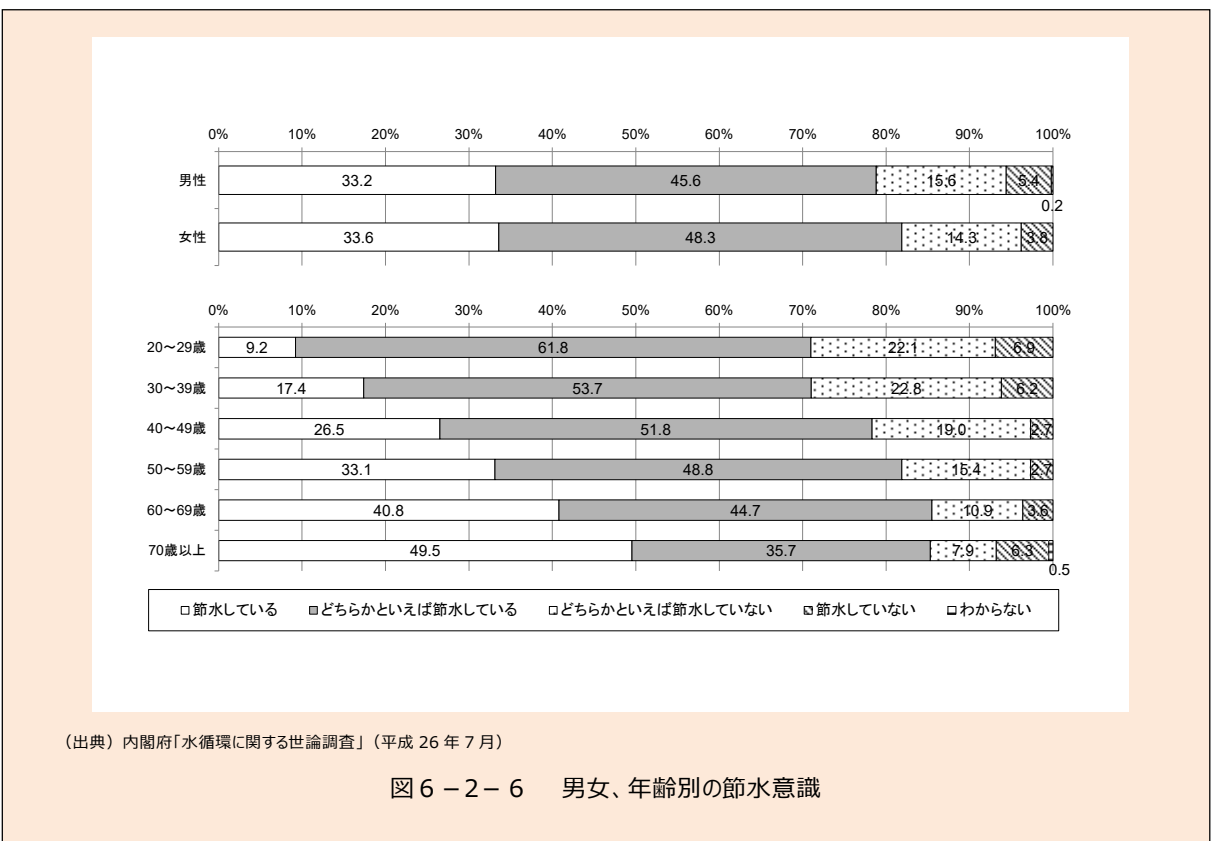


図6-2-6 男女、年齢別の節水意識